

陶郷の町・砥部が誇る「砥部焼」（磁器）の歴史は、1777（安永6）年、杉野文助が焼成に成功したことに始まる。以来、2027年で250周年を迎える。町内に、全国に類を見ない「焼きものづくりの一貫体制」という、「日本有数の窯業遺産」を持つ「砥部焼」は『日本の宝』と言える。2021年から5年間、砥部町教育委員会と愛媛大学社会共創学部（楨林研究室・ゼミ）が、窯跡など関係先を調査した。

（日本有数の窯業遺産）

砥部焼は

日本の宝展

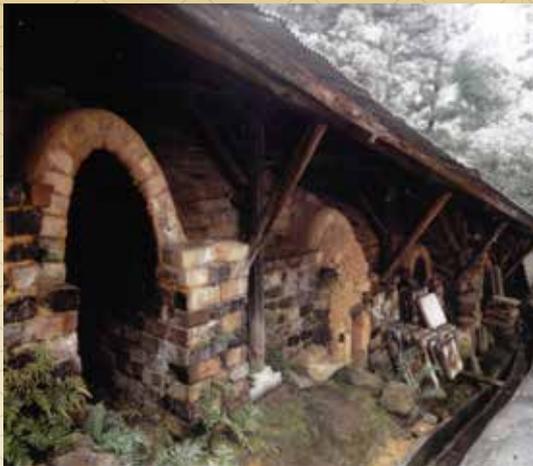
結果、砥部には日本トップクラスの陶石と、「採掘―土作り―成形―絵付け―焼成―出荷―販売―流通」までの「焼きものづくりの一貫体制」があり、日本でも有数の貴重な価値が実証された。前期は、その歴史的意義を、先人たちの足跡を辿った調査から位置付ける。後期は、日本でも希少な7種類の窯が現存する白水窯を初めて3D化した。さらに、成果を集約して、今後の砥部焼のあり方をも模索、将来の町づくりへ展望を拓く。

磁器焼成250周年プレイベントとして、砥部町教委・愛媛大学社会共創学部の協力を得て、調査資料などを展示披露する。

前期

2026年3月7日(土)~7月26日(日)

「なぜ、日本の宝か」



梅山大登り窯（梅山窯：砥部町指定有形文化財）

後期

9月5日(土)~2027年1月31日(日)

「“伝統”から“町づくり”へ」



初めて3D化された希少な7種類の窯が現存する白水窯



砥部むかしのくらし館

TOBE OLD DAYS LIFE & ART MUSEUM
SINCE 1905

国登録有形文化財

【砥部むかしのくらし館】

〒791-2132 愛媛県伊予郡砥部町大南701

TEL.089-962-5258 開館時間10時~16時(入場無料)

土曜日・日曜日のみ開館

